

学校教育目標

- ・意欲をもち 自主的に学習する生徒
- ・人と郷土を愛し 進んで奉仕する生徒
- ・健康で はつらつとした生徒



<式歌合唱>



<<人権週間、人権感覚を見直そう！>>

12月4日(土)~12月10日(金)の世界人権週間と同じ期間に国分寺中学校でも人権週間を設けて、人権について考えました。人権週間中は、各教室に作成したポスターを掲示したり、「心の振り返りカード」で毎日の自分の言葉を振り返ったりしました。12月24日(金)には金清隆純委員に来校してもらい、オンラインで人権集会を開催しました。委員さんからは「互いの人格を尊重する」ということを中心に話をいただきました。一人ひとりが改めて、人権について考える機会になりました。



<金清委員さんのお話>

<<読み聞かせ、小中一貫教育の推進！>>

昨年度、国分寺中学校区で実施した中学生による読み聞かせを今年度も実施しました。1月13日(木)に国分寺小学校、1月17日(月)に国分寺東小学校で行いました。11月から委員会活動の時間に図書ボランティアの方に来ていただき、指導してもらいました。当日は、中学生が自分で選んできた2、3冊の本を心を込めて読みました。最初のうちは緊張した様子でしたが、小学生の熱心に聞く姿を前にして読むことに集中することができたようです。活動後の振り返りでは「自分自身も良い経験ができたので、また工夫してやりたい。」と感想を述べていました。1月19日(水)の下野新聞に記事が掲載されているので、ぜひご覧ください。図書ボランティアの皆さん大変お世話になりました。



<国分寺小学校>



<国分寺東小学校>

<<下野市新聞の日、活字に慣れ親しもう！>>

1月19日(水)20日(木)の朝の学習時間を利用して「第4回下野市新聞の日」を実施しました。今回は、選んだ記事の内容をつかむためにワークシートに関連記事についても見出しや内容をまとめました。生徒達は、記事をじっくりと読み、選んだ記事をしていねいに切り抜いてワークシートに貼り、内容をまとめたり、感想を書いたりしました。次回は2月15日(火)の予定で、今年度の最終回になります。この体験事業を通して、新聞に触れる機会が増え、新聞への興味・関心を高め、社会情勢にも関心を持つことができたいと思います。ご家庭でも新聞記事を話題にしていいただければと思います。



<選んだ記事の切り抜き>

<<給食週間、感謝の気持ちを忘れずに！食べるは生きる力！>>

1月24日(月)~30日(日)は「全国学校給食週間」でした。国分寺中学校では、この給食週間に給食について考えてもらうよう標語、ポスター、作文を作成してもらい、優秀な作品を表彰しました。また、この期間、国分寺学校給食センターには、日本各地(岐阜県、福島県、埼玉県、鹿児島県、広島県)の郷土料理を出していただきました。初めて食べる料理もあり、楽しく、美味しくいただきました。1月26日(水)27日(木)の給食の時間には、2年生の古澤美咲さん「毎日の給食に感謝して」、橋本涼平さん「給食の持つ力」、1年生の星野佑樹さん「毎日食べたくなるおいしさの工夫」、阿部葉奈さん「食事に対してのありがたさ」の作文発表を行いました。そして、28日(金)には、国分寺学校給食センターの穴戸恵美栄養教諭から、食べることの大切さ、食べ物や給食に関わる人達への感謝について話をいただきました。これからも生徒達が給食に対して感謝を忘れず、しっかりと食べて心身を成長させていくよう支援して参ります。



<優秀作品の展示>



<穴戸栄養教諭のお話>

《立志式、おめでとうございます！》

2月1日(火)に「令和3年度下野市立国分寺中学校立志式」を実施しました。式のねらいは「自分を振り返り、多くの人々への感謝を再認識する」「高い理想とくじけない心を持ち、自分の生き方を考える」「社会に奉仕できる心身ともにたくましい人間に成長する」等を生徒達に考えてもらうきっかけにしようことです。

最初に学校長式辞と県知事メッセージ代読を行いました。また、市長からいただいた「立志を迎えた皆さんへ」というメッセージは、パンフレットに印刷し、各自に読んでもらいました。次に実行委員長の本橋叶麻さんから、下記にあるような力強いあいさつがありました。そして、陣在桜恵海さんが「奇跡をつなぐ仕事」という題名で2年生を代表して立志作文を発表しました。「誓いの言葉」では、一人ひとりが自分の決意や思いをしっかりと発表することができました。最後の「式歌合唱」は、指揮者が保科清樹郎さん、伴奏が藏持リ朋子さんと「千年樹の夢」を歌いました。感染症対策のためマスクをしていましたが、一人ひとりの思いがこもった素晴らしい合唱になりました。立志式後に代表生徒の伊澤知花さんが参加していただいた保護者の皆さんへ感謝の言葉を述べました。そして、教室に戻り、サプライズの保護者からの手紙を読んで、感じた感謝の思い等を返事に書きました。

保護者の皆様には、立志式の参観にあたり、検温、消毒、人数制限等の感染症対策にご協力いただきありがとうございます。また、先日通知でお知らせした立志記念スキー宿泊学習の中止にご理解いただきありがとうございます。式歌合唱の「千年樹の夢」には「あの空に届きそうな、千年樹のような心で夢を見たい」という歌詞があります。生徒達は、この歌にあるように大きな夢をもって、自分の進むべき道に向かって努力をしていくと思います。今後も保護者や地域の皆様には、生徒達を見守り、ご支援いただければと思います。



＜実行委員長あいさつ＞



＜生徒代表の作文発表＞



＜記念品の贈呈＞



＜誓いの言葉＞



＜感謝の言葉＞



＜保護者への返事＞

『学校長式辞』の抜粋

……皆さんの可能性は無限大です。自分の可能性を信じ、これからの中学校生活で夢や目標に向かって、努力を重ねてください。努力は人を裏切りません。小さな努力の積み重ねは、必ず皆さんに大きな力と自信を与えてくれます。……これまで自分を支えてくださった多くの人々への「感謝」の気持ちを大切にしながら、更に大きく成長、飛躍してくれることを祈念して、立志の式辞といたします。

『実行委員長あいさつ』の抜粋 【本橋叶麻さん】

本日、私達国分寺中学校2年生143名は、立志式を迎えました。「立志」とは、将来の目的を定め、それを成し遂げようとするを言います。立式は、いつも支えられている家族、先生方、地域の方々への感謝し、自分の将来を誓う場でもあります。……私は、長期目標として「人間力を高める」事を掲げます。そして、そのための短期目標を考えると、山のような課題がみえました。今日からは、その一つ一つに到達できるよう日々精進します。日本では、今年4月から成人年齢が20歳から18歳へと変わります。大人になる責任が伴ってきます。……

本日を節目とし、ここに集う仲間達が、それぞれに自覚をもち、自分の将来を誓い、それに向かって研鑽し続けることを願い、実行委員長のあいさつとさせていただきます。

『代表者の立志作文』の抜粋 【「奇跡をつなぐ仕事」：陣在桜恵海さん】

……命が生まれてくること、そして元気に育っていくことが、奇跡なのだと感じました。私も私の周りにいるみんなも世界中で暮らすたくさんの人も全員が奇跡の子なのだと思います。だから、その奇跡でできた命が、病気や怪我で奪われてしまわないように助けたいと考え、看護師になりたいと思いました。これからもこの命を大切に、周りの命も大切に、病気や怪我をした人が安心して治療に専念できるようなサポート力、人に安心してもらえるような人間性を育てたいです。……悲しみや辛さに直面している患者さんにこれからも元気に生きていくという選択肢を与えることができる看護師になりたいです。

最後に、人は一人では生きられないから私の周りにたくさんの方がいる奇跡に感謝して生きていきたいです。

